

氏名	臼 杵 尚 志		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	博乙第1922号		
学位授与の日付	昭和63年6月30日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）		
学位論文題目	乳腺疾患のサーモグラフィ診断に関する研究 —特に乳癌の病理学的所見との関連について—		
論文審査委員	教授 折田薫三	教授 赤木忠厚	教授 関場 香

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

1984年6月から1987年1月までに岡山大学第二外科および国立病院四国がんセンターにて行った乳腺サーモグラフィ症例は805例であり、この内乳癌症例は117例、良性腫瘍症例は688例であった。これらを対象として多変量解析の応用により診断基準の再検討を行った結果、sensitivity 87.5%, specificity 74.2%, total accuracy 76.2%の診断成績を得た。また、この内の乳癌手術症例107例を対象にサーモグラフィ所見と病理学的所見との関連を検討したところ、両者の間には密接な関係が存在することが明らかとなった。すなわち、触診上の大きさにかかわらず、予後不良と言われる充実腺管癌、硬癌および組織学的に進行した乳癌ではサーモグラフィ上強い悪性の所見を呈するものが多く、逆に、良性の所見を呈したものの多くは脈管、リンパ節、周囲組織への癌巢の波及を認めなかった。これらの結果より、サーモグラフィにて悪性所見を呈した症例では良性所見を呈した症例より予後は不良であると推測され、また手術術式の選択にあたっては、サーモグラフィ上悪性所見を呈した症例では縮小手術は慎重に施行されねばならず、逆に良性所見を呈した症例ではT2症例であっても本術式の適応を広げ得ることが示唆された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究者は、乳癌の早期発見、その悪性度をより明らかにすべく、805例の乳腺サーモグラフィの多変量解析から、診断基準を設け、乳癌手術107例では病理所見との関連をも検討している。本方法によると、触診やエコー上無腫瘤であったT0乳癌4例を発見し、しかも腫瘤の大きさとは無関係に組織学的悪性度を術前に良くcheckしうること、したがって手術方法の選択に有用なことを明らかとしている。临床上、誠に価値ある業績であって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認定する。